

総合問題 (日本文) 早稲田大学 政治経済学部 1/4

<総括>

出題数

日本文1題・英文1題・自由英作文1題

試験時間

120分

3月のサンプルの英文問題、7月のサンプルの日本語問題と同様に、図表を数多く掲載し、それに関する説明が文章のなかで行われている。散布図など図表に関する理解を前提とした、図表の読み取りや図表に基づく推論が出題された。また図表に基づいて200字以内でシンプルな見解論述を行うことが求められた。

<本文分析>

大問番号	I
出典 (作者)	<p>本文は書下ろし</p> <p>図1「日本における出生数と死亡数の推移」厚生労働省「人口動態統計」(1899年から2019年までの調査)</p> <p>図2「日本の人口の推移」総務省「国勢統計」(1920年から2015年までの調査。ただし、1945年のみ「昭和20年人口調査」)</p> <p>図3「日本における合計特殊出生率の推移」厚生労働省「人口動態統計」(1947年から2019年までの調査)、国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集2020年版」</p> <p>図4「都道府県別合計特殊出生率と女性の労働人口比率」(2005年、2010年、2015年)総務省「国勢統計」(2005年から2015年までの調査)、厚生労働省「人口動態統計」(2005年、2010年、2015年調査)</p> <p>表1「理想の子ども数と予定する子ども数」国立社会保障・人口問題研究所(2017)「第15回出生動向基本調査」</p> <p>表2「今後持つつもりの子どもの数が実現できない原因として可能性の高そうなもの」(多重選択)国立社会保障・人口問題研究所(2017)「第15回出生動向基本調査」</p> <p>表3「都道府県別人口変化率(2010年から2015年)と65歳以上人口比率(2015年)」総務省「国勢統計」(2010年調査、2015年調査)</p> <p>表4「世帯人員数別世帯数」総務省「国際統計」(1985年から2015年までの調査)</p> <p>図5「世帯主の年齢階級別単独世帯数」総務省「国勢統計」(1985年調査、2015年調査)</p> <p>図6「要介護(要支援)認定者数」厚生労働省「介護保険事業状況報告」(各年)</p>
頻出度合 ・的中等	直前講習「早大(政経)総合問題テスト」の英文問題で取り上げた少子高齢化が出題された。図表問題の定番中の定番である。
分量	約3500字程度。7月に出了されたサンプル問題は5000字程度だったが、7月は7つであった図表が10に増えたので同程度の分量。
難易	7月に出了されたサンプル問題と同程度。

総合問題 (日本文) 早稲田大学 政治経済学部 2/4

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
I	データ分析	1	マーク	標準	空欄補充。図4の散布図を見て、推論もまじえて①にあてはまる文章を選ぶ問題である。全体の傾向だけでなく地域ごとの傾向も読み取らせたいという出題意図はわかる。だが、この散布図からだけで判断をさせるのにはやや無理があるのではないか。
		2	マーク	標準	空欄補充。単純に表1を読み取り②にあてはまる文章を選べばよい。
		3	マーク	標準	空欄補充。表2が多重選択であることに注意しながら、表2を読み取り③に入る文章を選ぶ。
		4	マーク	標準	表3を散布図としたときにふさわしいものを選ぶ。分布のあり方や高齢化率と人口変化率が大きくなっている都道府県の値から判断すればよい。
		5	マーク	標準	表4を読み取り、④にあてはまる文章を選べばよい。
		6	マーク	標準	図5で1985年から2015年にかけて70歳以上の単身者が増えている要因を問題文の図から推論する。推論の手がかりとなる図表を見つけることがポイント。
		7	論述	標準	高齢者の生活を支えるのに有効と考える政策に関して、図表を適宜用いながら、その政策が有効である理由とともに200字以内で記す。字数が少ないのでコンパクトに論述をする必要がある。少ない字数で、図表に即した議論を行わなければならないので議論の幅は限定される。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

本年度は3月の英語のサンプル問題や7月の日本語のサンプル問題と同様に多くの図表を掲載し、それに関して説明する課題文となっている。この傾向は、しばらくは続くと予想される。図表の読み取りに慣れていないと歯が立たないので、きちんと図表の読み取りの練習を行っておくことが不可欠である。また短いとはいえデータに基づいた意見を論述する問題が課せられるので、論述の練習も行っておきたい。

総合問題(英文) 早稲田大学 政治経済学部 3/4

<全体分析>

	出題数	日本文1題・英文1題・自由英作文1題	試験時間	120分
解答形式 マーク式と記述式の併用。				
分量・難易 大問Ⅱの総語数は1,988wordsで、7月のサンプル問題(総語数1,490words)よりも長く、本学部では昨年までにも出題されなかった約2,000wordsの長さであった。				
出題の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・大問Ⅱは超長文の評論文で、全7問中、空所補充が6問(そのうち、1問は日本語による記述問題)、内容一致が1問であった。日本語による記述問題は、7月のサンプル問題に似た形式の問題が出題されていた。内容一致や、段落や前後の内容理解を問う空所補充は、昨年までの英語試験では定番のものであった。 ・大問Ⅲは与えられたテーマについての賛否を論じる自由英作文で、本学部では2009年度以降出題され続けている。「総合問題」として初年度になる今年は、本格的な社会的テーマが出題された。 				
その他トピックス <ul style="list-style-type: none"> ・新テスト1年目に出題された英文の出典は、20世紀後半の論文で、「種差別」をテーマに生物種保護の問題を環境論と関係させながら論じる評論文であった。文章量の増加は、大学入学後のいわゆる「超長文」素材を論旨把握中心に展開する講義形態を意識したものと考えられる。 ・自由英作文は「Peaceful protests (平和的抗議)は暴徒化すべきでない」というテーマの賛否を問うものだった。根拠に用いる具体例として個人的な内容を書くことは難しく、政治の歴史や時事的な常識を英語で表現する力が求められた。 ・「総合問題」として新テスト1年目を迎えたが、大問Ⅱと大問Ⅲは従来の「英語」の範疇に収まるものだった。3月のサンプル問題で出題されたような英語と小論文の統合を試みるような問題ではなく、また、英語の長文問題と作文問題のテーマの統合を試みるような問題でもなかった。 ・直前講習「早大(政経)総合問題テスト」の英文問題で取り上げた少子高齢化が、日本文問題として大問Ⅰで出題された。図表問題の定番中の定番である。 				

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
Ⅱ	読解総合	「種差別と環境に関する倫理的な考察」 (1,988words)	内容一致1、空所補充6。設問5の空所補充は日本語による記述問題。 大問Ⅰを含む全体の時間配分にもよるが、目安として50分程度で解答することを考えると、難度は決して低くない。設問5の日本語による記述問題は、空所直後の文とほぼ同内容の文を書くことになるような出題であった。	標準
Ⅲ	英作文	自由英作文 「平和的抗議は、自分たちの声が無視されていると感じても、暴力に訴えるべきではない」という意見の是非について	「1つのパラグラフで書くこと」「賛否の理由は少なくとも2つ挙げること」という指示がある。解答用紙のスペースから判断して、100~150語程度で書くことになるだろう。	難

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

総合問題(英文) 早稲田大学 政治経済学部 4/4

<学習対策>

大問Ⅱは、2,000words 近い分量の「超長文」を素材に、論旨を正確に把握する力が要求されている。1,500語超の英文を数多く読み、内容を迅速かつ正確に把握できるように演習しておくこと。設問形式は、昨年までの英語試験とほとんど変わらず定番の出題であったので、過去問や問題集などを利用して練習しておくことよい。また、100語程度の自由英作文が出題されるので、いくつかテーマを決めて、平易な構文で、自分の言いたい内容が明確に伝わるように英文を書く練習を十分に積んでおく必要がある。